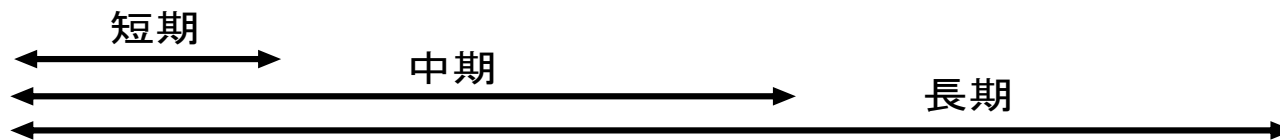


天理市高原地区活性化プロジェクト(案)

事業予定一覧(案)



プロジェクト・事業項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
1.空き家利活用推進事業	●----->				
2.民泊モデル体験事業	●----->				
3.産品づくり推進事業	●----->				
4.酒米作付けプロジェクト	●----->				
5.旧福住幼稚園、山田公民館利活用事業	●----->				
6.農業法人誘致事業	●----->				

小さな拠点づくり

天理市版
総合戦略

都市農村共生・対流総合交付金

▶▶▶ 共通認識

I 空き家発生による主な悪影響

- 風景・景観の悪化
 - 防災や防犯機能の低下
 - ゴミなどの不法投棄等を誘発
 - 火災の発生を誘発
 - 悪臭の発生
- ※その他地域特性として、積雪による倒壊の危険がある

天理市空き家率 15.2% (3,570 / 23,410戸)
出典:「平成25年度住宅・土地統計調査」(総務省統計局)

II 空き家対策における基本姿勢

- 応急対策----- (マイナスの解消)老朽化により生じる悪影響を解消する対策
- 活用策 ----- (プラスの創造)空き家を「資産」と捉えて新しい価値を生み出す対策

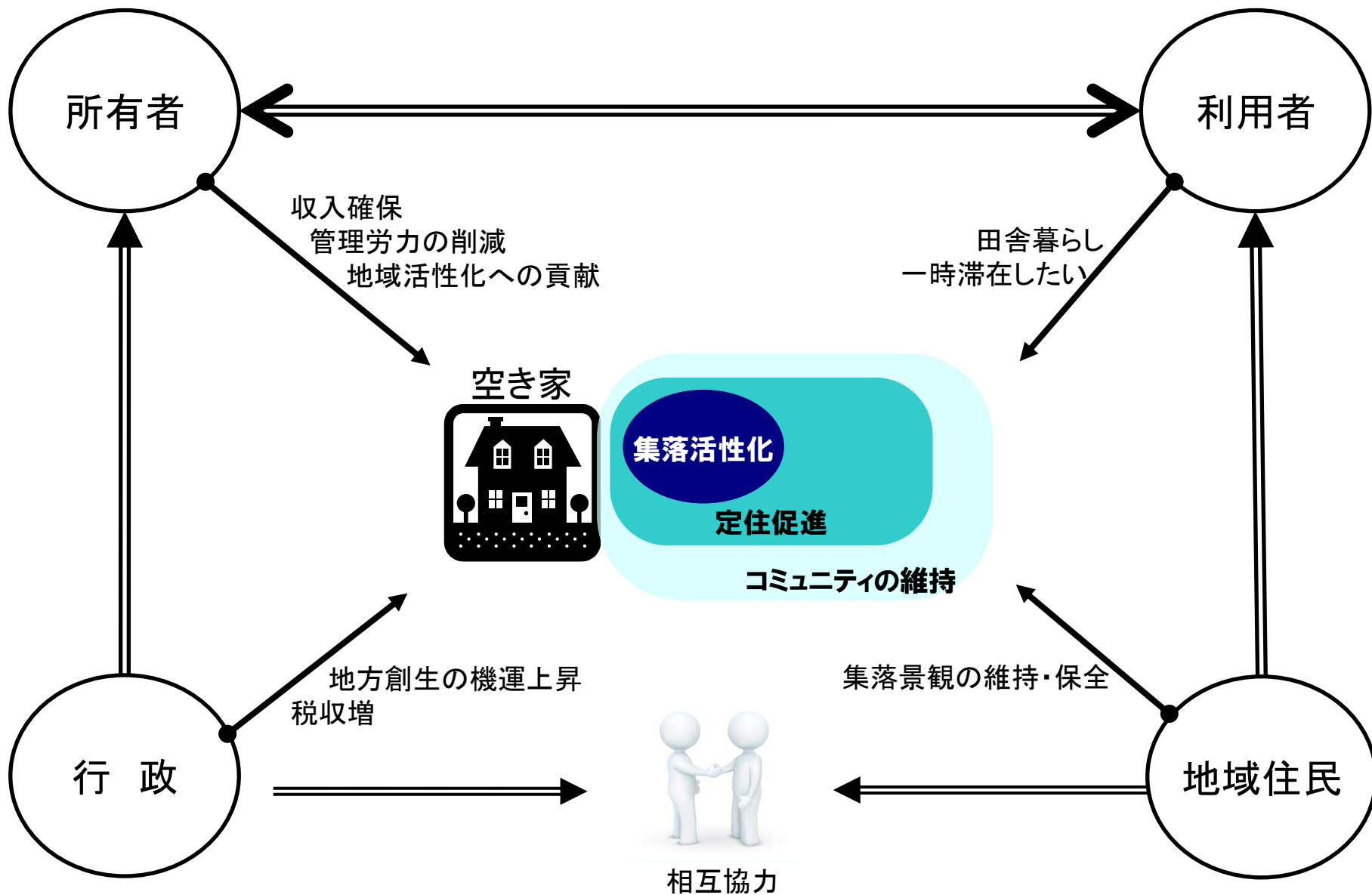
▶▶▶ 課題整理

III 空き家利活用における主な課題(阻害要因)

- 所有者----- 仏壇・家財道具あり、入居者の人柄に対する不安、相続問題
- 利用者----- コミュニティに馴染めるか不安、所有者との交渉困難
- 地域住民----- 個人所有者の関与難しい、利活用者とのトラブル回避
- 行政----- 私人間契約に関与しない、契約後のトラブル責任回避

空き家利活用推進事業

2. 活用による効果

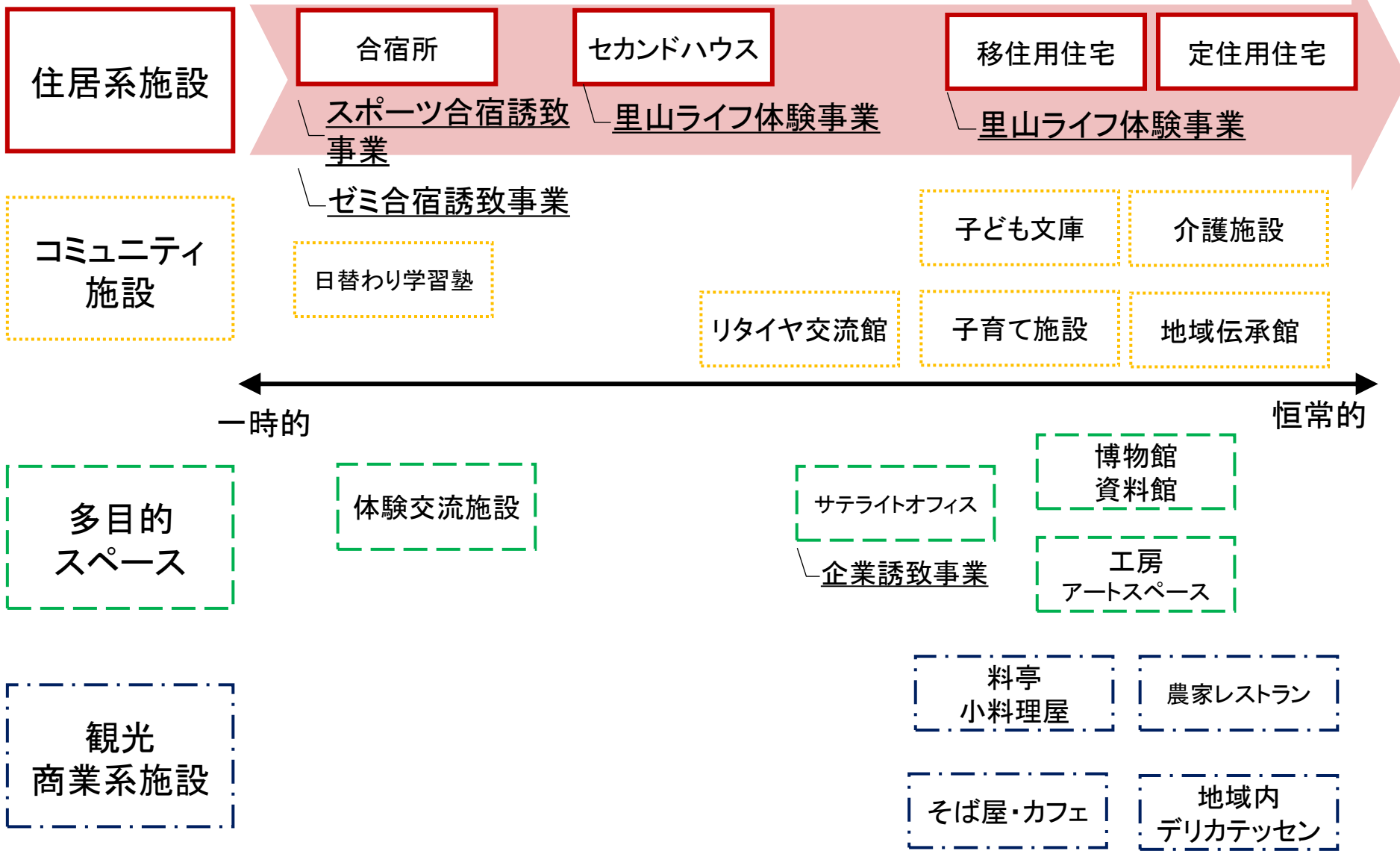


空き家活用に対する効果は多く、
地域活性化につながる施策となる。

空き家利活用推進事業

3. 用途事例

住居系施設を
事業案を
目指した
提案



空き家利活用推進事業

5-1. 事業提案

1.事業名: 身近な里山ライフ体験事業 ～「福が住む」まちの再生に向けて～

2.事業の実施主体: 天理市(地域住民と協力)

3.事業の実施時期: 平成27年7月1日～9月30日

4.事業趣旨・目的

1)強みを活かす

- ・都市圏(大阪・京都)からの道路交通便利性を活かす。
- ・色濃く残る豊かな自然環境を活かした農業・自然体験を実現できる地域である。

2)目的・国の動向を踏まえる

集落活性化・コミュニティの維持・向上という長期的視野に立脚し、移住及び二地域居住の促進を図る。

→平成26年末決定「まち・ひと・しごと創生本部総合戦略」のうち、地方居住の本格推進、空き家対策の数値目標に寄与。

5.事業概要

1)・現在の空き家を「移住・二地域居住モニターハウス」と位置付け、移住及び二地域居住の実現に向けて試験的に実施する。

・農業体験を実現させるべく農地(耕作放棄地を含む)と地域農家による助言・指導を提供する。

2)事業後の展望を見込んだ仕組みづくり

・モニター応募時には、地域慣習ルール説明及び医療・福祉機関や生活利便施設の位置・距離情報の提供。

・モニター体験中には、地域の利用者と地域住民との交流機会の創出や地域行事への参加を促進する。

6. 事業後の展望

・平成27年度中にモニター体験報告に基づき、目標(定住化・二地域居住化)達成に向けた必要な課題を抽出・特定、対策考案。

・平成28年度以降には、モニターハウスからの移住・二地域居住住居に転換できるよう空き家所有者と正式交渉を図る。

7. 事業スケジュール:別紙参照

産品づくり推進事業

2-1. 委員アイデア提案(農産品)

提案委員	農産品(素材・原材料)	備考(主な生産地、提案など)
委員共通	いんげん豆(さやいんげん)	⇒数軒で組合をつくり出荷中。[山田町下山田]
	しいたけ	菌床栽培、原木栽培されている。[福住町・長滝町]
	お茶(大和茶)	[福住町上入田・中定]
	お米(福住高原米)	谷水で育った稲米はおいしいが、安価で採算困難なためブランド米として確立・販路も見出したい。
	かんぴょう	天候次第で乾燥に左右されるが販路が確実に協同して実行すれば実のあるものになる。
前島(敏)委員	ホオズキ	
木村(洋)委員	寒さを活かした「葉」物野	(例:寒熟ほうれん草)
木村(勇)委員	割木・炭	
	薬草	
	蕎麦	
市本委員	酒米 給食用食材	
前嶋知映委員	六条大麦を試作栽培	信州より取り寄せて12月初めに播き、5月～6月収穫した麦を製茶工場にて焙煎、麦茶加工する予定。 ⇒製品化した麦茶を氷まつりで試食・販売。
	地中海トマト2種(サンマルツアーノ、ロツロツ)	サンマルツアーノはコンフィチュール加工 ロツロツはイタリアン料理に使用。

産品づくり推進事業

2-2. 委員アイデア提案(加工品)

提案委員	加工品	備考(主な生産地、提案など)
委員共通	こんにゃく	こんにゃくいもを栽培し、製造販売中。福住町井之市など
	かきもち	農閑期に手作りおやつとして昔から作られている。
	味噌	自家製大豆でつくる味噌。青大豆、白大豆、黒豆で作る。
岡田委員	べじケーキ(カップケーキ)	かんぴょうを使ったケーキ ⇒天理大学生による商品 ※別紙資料参照
植田委員	きな粉	青大豆でつくるきな粉は山間部ではお正月には欠かせない。
木村(勇)委員	梅干し	
	干柿	
	草餅	
	ひまわり油	
	竹細工 藤・あけびツル細工	
	イノシシ肉	
	間伐材のペレット燃料	
市本委員	酒	
前嶋知映委員	麦茶(六条大麦)	
	トマトのコンフィチュール	地中海産トマト(サンマルツァーノ)を利用

提案委員	その他(工業品・技術、地域の祭り食・行事食)	備考(主な生産地、提案など)
植田委員	かしわ弁当	山田町虫送りで配られている朴の葉に包まれた山菜おこわ弁当。
	ちまき	端午の節句で昔は作ってもらった。作れるひとが少ないなか継承したい。
	亥の子のくるみ餅	米の収穫を喜び、餅を食する(東北ずんだ餅のようなもの)
木村(勇)委員	山菜料理	
	郷土料理	

▶▶▶ 共通認識

○幼稚園・公民館等の公共施設は地域の社会的な拠点である。

○しかし、目的別に建てられた施設の役割は、少子・高齢化や社会環境の変化によるニーズの多様化等により変化しており、「新たな役割・機能」も与えることが必要。

○住民に密着した施設から、地域の実情に沿いながらも「いつでも」「誰でも」利用可能な総合的な地域活動の拠点施設を目指す意識の醸成を図る。

○全国の中山間地域においても廃校利用した様々な事業・活動が展開されている。

▶▶▶ 新たな枠割・機能を付与したい施設候補

高原地区の地理条件より、

「山田公民館」と「旧福住幼稚園」を東西の拠点候補と位置づける。

旧福住幼稚園・山田公民館利活用事業

2. 配置現状



旧福住幼稚園・山田公民館利活用事業 3-1. 委員提案(山田公民館)

提案委員	求める機能	備考(機能を活かして展開する事業内容など)
前島(敏)委員	公民館喫茶店	
	林間学校	
	商品開発拠点 商品(料理)の提供	天理大学(畿央大学)の食物学科との連携、研究サテライト 水・空気・食材をコンセプトに2ヵ月に一回そこで作られた料理を提供する。
	天理大学の外国語学科による国籍料理の提供	
市本委員	建物そのものの魅力を発信する。	映画製作関係者やテレビ番組制作会社にアプローチ等を行い、売り込む。
	街並み・里山を活かしたワークショップ	里山料理コンテストの開催、自然食材・地域食材の料理教室の開催(地域で採れるヨモギ等を自ら散策採取し、調理する)。
	虫送りの松明づくりワークショップ	市無形民俗文化財に指定されている「虫送り」だが、市内・県内にもあまり知られていないと感じており、松明づくりワークショップを開催し、自分でつくった松明を持って「虫送り」に参加していただく。
	環境イベントの拠点 里山ハイカー立ち寄り処及びサイクリング拠点	生物多様性地域戦略を実践する活動拠点に最適の場所。 里山ハイカー&サイクリングの休憩スポット
木村(勇)委員	防災拠点	
	体験合宿所	
	地域を知る研修所	
	加工食品の開発研究拠点	
植田委員	郷土料理の加工販売	現在作られる人が少なくなった、ちまき・ひし餅・くるみ餅・かき餅など、時期に沿った食物をつくり提供する。かつての亥の子の祭のようなことを行う。
	地域住民交流サロン	
	多世代交流の場	
	空室を利用してゼミナール式に利用	多方面に広げて大学生と児童生徒の交流等発展していくと良い。
木村(洋)委員	昭和時代の博物館	
岡田委員	地域の伝統文化(虫送り・稲作等)を体験する拠点	子どもたちが体験し、宿泊できる施設として使用。

旧福住幼稚園・山田公民館利活用事業 3-2. 委員提案(旧福住幼稚園)

提案委員	求める機能	備考(機能を活かして展開する事業内容など)
市本委員	農業体験、及び農業従事者育成のための拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然の中で農業体験及び農業を習得する(授業&実体験)。また、耕作放棄地及び生産農家の田畑で実体験が可能。 ・定住促進のためにも空き家等の積極的な活用。里山生活に興味のある若者を呼び込む。また、奈良県農業大学校と連携するなど、学生さんを福住地域に呼び込むのも一考、繁忙時期のアルバイト確保にも一役買う。 ・果樹育成収穫体験や習得は、南部街づくり協議会との連携も可能と考える。 ・法人格の取得も考慮し、旧福住幼稚園を新たな名称として自主運営ができるように考えないといけない。そのためにも収益の上がる商品開発((酒米・給食用食材など)及び流通(ネット通販・百貨店・高級スーパーなど)を構築しなければならないと考える。
木村(勇)委員	福住地域活性化の発信基地 防災拠点 地域住民交流サロン 芸術・文化活動及びアートイベント会場 園芸栽培場 体験学習拠点 加工食品の開発研究拠点 郷土の生活様式、郷土の自然環境展示館 地産地消・工芸品販売所(ミニミチ駅) ビオトープ	
植田委員	地域住民交流サロン 自然・農業体験学習の拠点	ひと息つける喫茶提供をもち、くわがたやかぶと虫の集まる木、クヌギ等を横の山に植えたし、夏休みの子どもの集まりやすい場にすると魅力的になる。※宇陀菟田野「カエデの郷」のような例
前嶋(知)委員	子どものふれあいスペースの場の提供 未就学児と若いお母さんらの公園デビューの場の提供 幼稚園カフェの開催	子どもの宿題、体験、多世代交流。夏には、絵画教室・木工教室・料理教室・昆虫観察・植物観察など。冬には、習字教室・音楽教室など